

## 欧米出身留学生の日本のサブカルチャー観について

安 龍洙\*

(2019年10月28日受理)

### Some Insights into the Way Western Foreign Students Perceive Japanese Subculture

Yong Su AN\*

(Received October 28, 2019)

#### 要旨

本稿では欧米出身短期留学生3名を対象に、PAC分析法を用いて彼らが日本のサブカルチャーについてどのように捉えているのか検討した。その結果、以下のような結果が示された。(1)日本のサブカルチャーは可愛さをアピールしようとしており、欧米文化とは異なるユニークさを持っていると考える。(2)日本のサブカルチャーは種類が多いと感じており、全体的にポジティブな印象を持っている。(3)日本のサブカルチャーは古いものと新しいものが共存しており、テレビ番組やゲームは展開が早いと考えている。(4)日本は著作権に厳しく、ルールを守る社会であると考えており、これは先行研究と一致する。(5)地震、台風などの日本の自然災害に対してはネガティブなイメージを持っており、これは先行研究と同様の結果が得られた。(6)被調査者全員が日本のサブカルチャーが日本語学習の切っ掛けではないと回答しており、先行研究と異なる結果が示された。(7)日本のサブカルチャーに対するイメージの形成は、被調査者自身の実際の体験によるものが多いと思われる。

【キーワード】 欧米出身留学生、日本のサブカルチャー、PAC分析法、異文化理解

#### 1. はじめに

本研究は日本社会における「外国人」と「日本人」の異文化相互理解の実態とその特徴について認知的・情意的な観点から質的に検証し外国人と日本人の相互理解と相互交流の課題と問題点を検討する一連の研究の一部である。本稿では外国人留学生が日本のサブカルチャー<sup>1)</sup>を通して日本社会と日本人をどのように理解しようとしているのか探るために、石鍋・安(2019)、松田・安

---

\*茨城大学全学教育機構 (〒310-8512 水戸市文京2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan)

(2019) の先行研究を踏まえながら検討する。

漫画・アニメに代表される日本のサブカルチャーは世界中で知られているものが多く、幼少時からこのような日本のサブカルチャーに慣れ親しんだ外国人が日本語、日本文化に興味を持つようになるケースも多い。また、筆者の日本語教育現場の経験からも日本語学習者の中には漫画・アニメなどの素材から日本人と日本文化を理解しようとする日本語学習者が少なくないことはいえる。PAC分析法を用いて日本語学習者が日本のサブカルチャーについてどのような態度構造を有しているかを探った先行研究としては、上述の石鍋・安(2019)、松田・安(2019)が挙げられる。

石鍋・安(2019)では、日本国内の大学で学ぶ東南アジア出身の留学生を対象に、1) サブカルチャーを通じた対日観は留学生の出身地域により異なるか、2) サブカルチャーを通し、留学生は日本社会をどのように見つめているか、の2点について探った。その結果、1) サブカルチャーを通じた対日観は留学生の出身地域により異なる可能性は低いと考えられること、2) サブカルチャーを通し留学生は伝統文化も含め日本を総合的に見つめている傾向がみられること、3) サブカルチャーを通じた対日観においては日本のアニメに関するイメージが強いこと、4) サブカルチャーに対して概ねポジティブなイメージを有していること、などが示された。

松田・安(2019)では中国人留学生を対象に彼らが日本のサブカルチャーをどのように捉えているのかについて探った。その結果、1) サブカルチャーと若者文化は同類のものとして捉え、流行や風俗等を産み出す母体としても考えていること、2) 中国人留学生の共通点と特徴として、「アイドル文化」を「漫画」、「J-POP」、「ドラマ」等と同類として捉え、中国でも人気のある日本文化としていること、3) 日本に留学する前はメディアを通じて日本のサブカルチャーについてのイメージを抱き、日本に留学した後は実際に経験してイメージを強化、あるいは新たに抱くようになること、が示された。

本稿では1) 欧米出身留学生が日本のサブカルチャーをどのように捉えているのか、2) 日本のサブカルチャーが日本語学習の動機になったのか、について先行研究の結果を踏まえながら検討する。

## 2. 調査方法

日本国内の大学で学ぶ欧米出身の留学生<sup>2)</sup>3名を対象にPAC分析を実施した。本研究への協力に当たり、研究の目的、研究協力の任意性、匿名化によるプライバシーの保護、協力同意撤回の自由について文書および口頭で説明し同意を得た。被調査者が特定されることを回避するため、出身地域、性別、年齢等が推測されうる箇所は削除、伏せ字、あるいは記号とした。

本研究では、「日本の漫画やアニメ・ゲーム・テレビなどのサブカルチャー」「若者文化」の2つのキーワードをあらかじめ連想刺激として指定し、欧米出身留学生が、サブカルチャーを通して日本をどのように捉えているか質的に探るアプローチを採用した。

研究は第1部の質問紙調査と第2部の口頭調査から構成した。第1部の質問紙調査では、以下の刺激を与えイメージ項目を質問紙に記入するよう教示した。イメージ項目記入の際、連想刺激中の①日本の漫画やアニメ・ゲーム・テレビなどのサブカルチャー、②若者文化を含めてイメージ項目が10個以上になるよう教示した。

**【刺激文】** サブカルチャーとは、日常的に人々に親しまれている文化です。例えば、娯楽、スポーツ、芸能、ファッション、若者文化などを指します。茶道や歌舞伎などの伝統文化はサブ

カルチャーに含まれません。

あなたは「日本のサブカルチャー」に対してどのようなイメージを持っていますか。思い浮かんだイメージを「単語（例：花、綺麗）、または短い文（例：綺麗だ、花は綺麗だ、花は綺麗）」で記入してください。

被調査者が記入した連想イメージを重要と思われる順序に並べるよう教示した。次に、各順位のイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いかわかる7段階尺度で評定するよう教示した。評定結果に対し被調査者ごと個別にクラスター分析を実施した。その後、クラスター分析の結果に対する被調査者自身の解釈を求めた。最後に連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+)、マイナスイメージの場合は(-)、どちらともいえない場合は(0)を記入するよう教示した。①日本のサブカルチャー、②若者文化は調査者が予め設けた項目のため、(+)(-)のイメージ評価はさせず、全て(0)として解釈するよう被調査者に教示した。

第2部の口頭調査において、(1)各クラスター及びクラスター全体の解釈、(2)各イメージ項目に対してそのイメージを抱くようになった切っ掛けについて尋ねた。口頭調査は、2018年7月から8月に日本語で実施した。

### 3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し被調査者自身の解釈について述べる。

#### 3.1. 被調査者 A

図1は被調査者 A（以下「A」とする）のデンドログラム<sup>3)</sup>である。また、表1は、Aのサブカルチャーのイメージ形成の切っ掛けである。

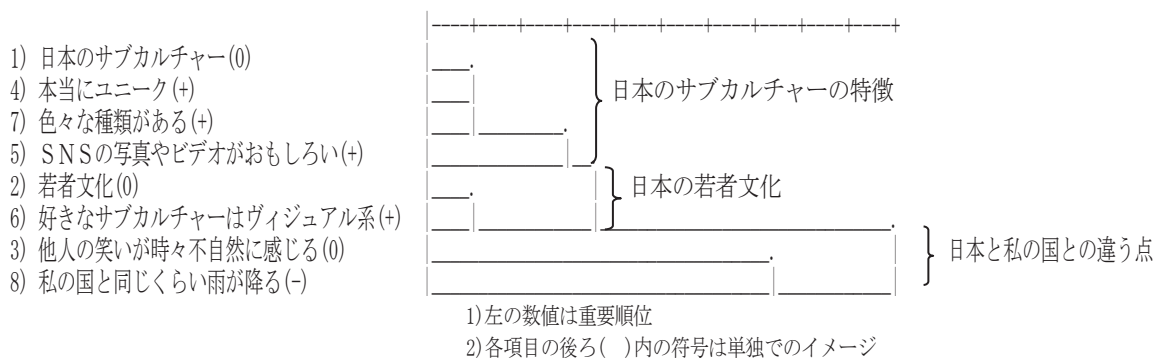


図1 Aのデンドログラム

クラスター1は『1)日本のサブカルチャー(0)』『4)本当にユニーク(+)』『7)色々な種類がある(+)'『5)SNSの写真やビデオがおもしろい(+)'の4項目でクラスター名は「日本のサブカルチャーの特徴」とした。クラスター1についてAは「このグループは殆どポップカルチャーのことだ。日本のポップカルチャーは面白いと思う。毎日SNSで写真とか音楽とか聞いているが本当にユニークだと思う。私の国のポップカルチャーはクールなイメージがあるが、日本のポップカルチャーは可愛くて優しいイメージがある。例えば、日本のアイドルグループの「AKB48」とか「初音ミク」とかがそうだ。」と解釈した。

クラスター2は『2) 若者文化 (0)』『6) 好きなサブカルチャーはヴィジュアル系 (+)』の2項目でクラスター名は「日本の若者文化」とした。クラスター2についてAは「クラスター2は若者のことだと思う。今の若者は基本とか伝統的なものに挑戦しているからそれは面白いと思う。歌とかファッションに日本の伝統的なものを取り入れているのが面白い。」と解釈した。

クラスター3は『3) 他人の笑いが時々不自然に感じる (0)』『8) 私の国と同じくらい雨が降る (-)』の2項目でクラスター名は「日本と私の国との違う点」とした。クラスター3についてAは「クラスター3は実際に見た日本のことだ。日本は私の国と同じくらい雨がよく降る。『3) 他人の笑いが時々不自然に感じる (0)』は時々不自然に感じる時がある。日本人の本音と建前の使い分けは不自然に感じる時がある。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2については「若者文化は色々な種類があってユニーク」と解釈した。クラスター1と3については「私の国と比べてSNSの写真とビデオ(動画)がおもしろいと思う。」と解釈した。クラスター2と3について「Aのヴィジュアル系のサブカルチャーは高校生の時から興味があったが、それはとても面白いと思う。」と解釈した。

全体のイメージについては、「難しいですね。他の国に比べて日本のサブカルチャーは本当にユニークなイメージがある。韓国の音楽と比べた韓国の音楽はアレンビーのような感じと、クールなイメージがあるが、日本の音楽とか服とかファッションとかは、快適な感じと可愛いイメージがある。」と解釈した。

サブカルチャーと日本語学習については「日本語を勉強した切っ掛けは曾祖父が日本人だったから子供の頃、よく手紙を書いたりして興味がわいたことだ。それで大学に入って日本語を勉強しようと思った。」と回答した。

表1 Aのサブカルチャーのイメージとイメージ形成の切っ掛け

クラスター1: 日本のサブカルチャーの特徴	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
1) 日本のサブカルチャー (0)	×
4) 本当にユニーク (+)	(実際に見て) 可愛い
7) 色々な種類がある (+)	SNSで色々なファッション、メイク、音楽をみて
5) SNSの写真やビデオがおもしろい (+)	日本のビデオを見ると良い気分になる
クラスター2: 日本の若者文化	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
2) 若者文化 (0)	×
6) 好きなサブカルチャーはヴィジュアル系 (+)	ヴィジュアル系のスタイルはかっこいい
クラスター3: 日本と私の国との違う点	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
3) 他人の笑いが時々不自然に感じる (0)	(実際に見て) 本音と建て前があって不自然
8) 私の国と同じくらい雨が降る (-)	事実

### 3.2. 被調査者B

図2は被調査者B(以下「B」とする)のデンドログラムである。また、表2は、Bのサブカルチャーのイメージ形成の切っ掛けである。

クラスター1は『1) 日本のサブカルチャー (0)』『2) 若者文化 (0)』『7) テレビのストーリーの展開が早い (+)』『3) アニメの種類が多い(大人向け) (+)』『12) ゲームやアニメのテーマソングが有

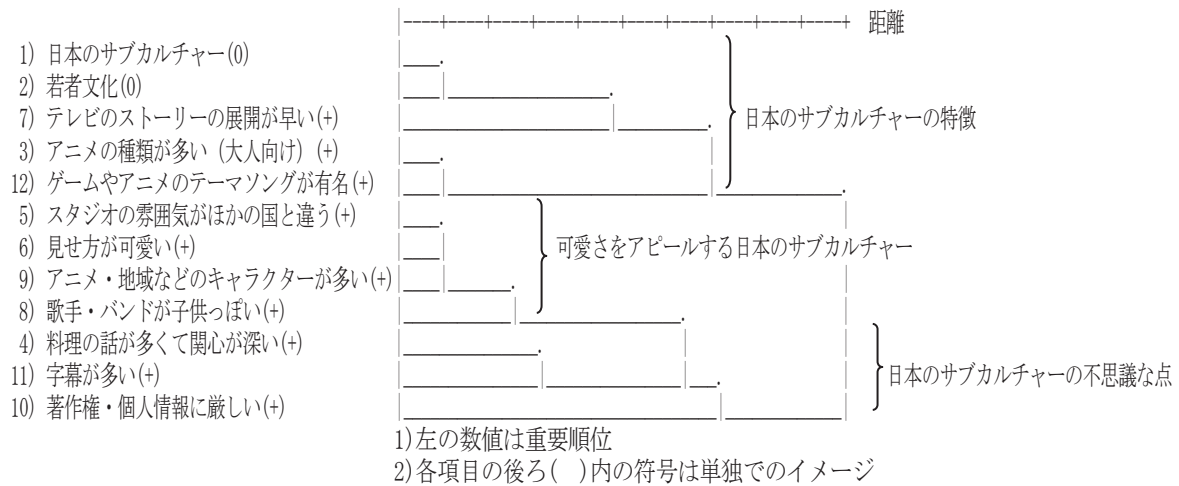


図2 Bのデンドログラム

名(+)]の5項目でクラスター名は「日本のサブカルチャーの特徴」とした。クラスター1についてBは「全体的に良いイメージだ。日本の若者文化の良いイメージだ。アニメの種類が多くて大人向けのアニメもあって誰でも楽しめる。ゲームやアニメの歌、テーマソングが有名になっているし、大人も子供もアニメに興味を持っている。テレビの番組の展開が早いというのは、●<sup>4)</sup>(国名)の番組と違って、まるで推理小説みたいという意味。謎解きのように話にステップがあって、一番面白いところでコマーシャルが入る。番組の話がすぐ変わっていてお年寄りはついていけないというイメージを持っている。番組の中に色々な説明があって複雑なイメージ。日本人はこういう展開になれているかもしれないが日本に来たばかりの時は慣れなくて面白いなと思った。日本の若者文化は可愛いというイメージが大事にされている。大人も可愛いもの、人物、料理などが好きで、憧れているイメージがある。ファッションも旅行もアニメも可愛いものが好まれて愛されているイメージ。ポップカルチャーは特に可愛らしいものに人気がある。タレントやテレビ番組やアニメも可愛らしさのあるものが人気がある。日本のアニメ、漫画の人気はこれからも変わらないと思う。」と解釈した。

クラスター2は『5)スタジオの雰囲気がほかの国と違う(+)]『6)見せ方が可愛い(+)]『9)アニメ・地域などのキャラクターが多い(+)]『8)歌手・バンドが子供っぽい(+)]の4項目でクラスター名は「可愛さをアピールする日本のサブカルチャー」とした。クラスター2についてBは「テレビ番組やポップカルチャー、歌手、バンドは可愛いイメージと子供っぽいものがたくさんあるというイメージ。テレビ番組のスタジオについて言えば、鮮やかな色が使われたり真面目な話があまりなかったり、司会者、キャスターやゲストなどの出演者が必要以上にたくさんいると感じる。何かの話題について話し合っている時に出演者が多い。朝の番組でも10人近くの人がいるし、スタジオのデザインや色が鮮やかだ。向こう、つまり●(国名)人から見ると、日本の番組は子供にアピールするような番組、子供向けの番組に見える。それは、日本は仕事をするのが大変で、平日はたくさん働いて家に帰ったら休みたい気持ち、気楽な話、真面目じゃない話をする事で気持ちを切り替えたくするし、休めるというイメージ。そういう意味でサラリーマンはこういう番組を見ると気持ちが明るくなるんじゃないかなと思う。もう一つは日本は安全な国で紛争とか戦争とかないし、ニュースの中にも暗い話が少なくてテレビ番組も真面目な問題を扱わなくてもいいと感じている。日本でも深刻な問題が起きているが、私の国のような深刻な政治的な問題は少ないから、番

組の内容もこういう内容になっていると思う。『8) 歌手・バンドが子供っぽい(+)] は学校の制服を着たバンドもあるし、衣装も歌詞も子供っぽいものが人気のイメージ。● (国名) みたいにセクシーな芸能人があまりいないのではないかと思う。● (国名) の芸能人のセクシーさと日本の芸能人の可愛さの違いを感じる。特に衣装、ダンス、ステージ、歌詞そのものからそういうことを感じる。歌詞はどの国も重い意味のものが少ないと思うが日本は特に可愛さを強調すると思う。クラスター1の可愛さはいいイメージだが、クラスター2の可愛さは、子供っぽい、軽い、幼稚という良くないイメージがある。クラスター2はもうちょっと大人らしい番組があったほうが良いと思うし、後、真面目な番組もあって色々な選択肢があってもいいと思うがそういうのがあまりないと感じる。全部似たような番組で内容が軽いというイメージがある。クラスター1はポジティブなイメージだがクラスター2はネガティブなイメージだ。普通の番組でも地域のキャラクターがあって吹き替えの声もわざと子供っぽくして不思議だなと感じた。また、真面目な話でも、政治の話でも、例えば、トランプやキムジョンウンの会談の説明の時も、スタジオのホワイトボードかポスターを用意してシールを張ったり剥がしたりしながら進める。不思議に思ったのは今の時代にこのようなアナログのものを使うことだ。映像で見せればいいのにポスターとかシールとか差し棒とかを使って説明するのは不思議だ。これは日本独特のやり方で他の国にはないことだ。このように、見せ方も違うし、用意するものも多いし、キャラクターのように目立つものを使ってアピールするのは日本独特のやり方だと思う。」と解釈した。

クラスター3は『4) 料理の話が多くて関心が深い(+)] 『11) 字幕が多い(+)] 『10) 著作権・個人情報に厳しい(+)] の3項目でクラスター名は「日本のサブカルチャーの不思議な点」とした。クラスター1についてBは「テレビ、旅行の時、日常生活で料理が大事にされていると感じる。また、テレビには料理の話が多い。ガイドブックにも料理の紹介が必ずある。料理と関係ない旅行の番組やある国を紹介する番組にも必ず料理の話が出てくる。料理の話題を強調したり美味しく見せようとしたりする。テレビや音楽、ビデオに字幕が多くて分かりやすいというイメージ。私の国では耳が聞こえない人のために字幕があっても日本のように多くはない。日本のテレビでは強調したい部分は、短いフレーズで大きい文字を使ったりする。それは漫画に似ている強調の仕方だ。人や映像だけでなく、こういう文字を使った演出をするのも日本の特徴だ。『10) 著作権・個人情報に厳しい(+)] は日本のキャラクターの写真は自由に使えないということだ。個人情報のことだが、街の様子をテレビで見せる時、許可をもらっていない人の顔は映さないことは不思議だ。東京だと1秒くらいなら別にいいし、それほど厳しくしなくてもいいと思う。人の顔にモザイクを入れるのはかえってあまりイメージが良くないのではないかと思う。それはその雰囲気がよく伝わらないからだ。著作権のことは分かるが人の顔がちょっとおかしくなると思う。『11) 字幕が多い(+)] はクラスター2と関係が深い。クラスター3の料理の話や個人情報の話はちょっとやりすぎではないかと思う。その意味であまりポジティブなイメージではない。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について「クラスター2のテレビ番組の選択肢が少ないというのはネガティブなイメージじゃないが、ポジティブなイメージでもない。似ている点はアニメや漫画は若者文化やテレビ番組に影響を与えていると思う。内容的には、辛い話や難しい話はあまり出ない。明るくて軽い内容が多くて、視聴者を楽しませるために作られている。」と解釈した。

全体のイメージについては「特に可愛くても、● (国名) から観たら子供っぽいイメージが強い。日本人が好きなサブカルチャーと● (国名) 人が好きなサブカルチャーはちょっと違うように思う。

● (国名) 人にとってのロックはハードロックのイメージで、内容の濃いものを好み、暴力的なものも好むが、日本人は相手の気持ちを大事にしているからかもしれないが可愛くて軽い感じのもの、あまり悪い印象を与えないようなものを好む。同じロックでも日本のほうが柔らかくて優しい感じがする。(どんな感じ?) 物足りないと言うより多様でないから選択肢が少ないと感じている。日本は同じパターンのもが多い。クラスター2のイメージは8年前に日本にいた時に抱いたイメージで今回再来日して再認識した。前回と同じようなイメージを持っている。」と解釈した。

サブカルチャーと日本語学習については「関係はない。日本語を勉強してサブカルチャー、ポップカルチャーに興味を持つようになった。」と回答した。

表2 Bのサブカルチャーのイメージとイメージ形成の切っ掛け

クラスター1：日本のサブカルチャーの特徴	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
1) 日本のサブカルチャー (0)	×
2) 若者文化 (0)	×
7) テレビのストーリーの展開が早い (+)	テレビを見て
3) アニメの種類が多い (大人向け) (+)	お店で見て
12) ゲームやアニメのテーマソングが有名 (+)	友人がカラオケで歌うのを見て
クラスター2：可愛さをアピールする日本のサブカルチャー	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
5) スタジオの雰囲気がほかの国と違う (+)	他の国のテレビ番組と比べて
6) 見せ方が可愛い (+)	同上
9) アニメ・地域などのキャラクターが多い (+)	旅行してみても
8) 歌手・バンドが子供っぽい (+)	テレビを見て
クラスター3：日本のサブカルチャーの不思議な点	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
4) 料理の話が多くて関心が深い (+)	周りの人の話を聞いて
11) 字幕が多い (+)	テレビを見て
10) 著作権・個人情報に厳しい (+)	大学で習って

### 3.3. 被調査者 C

図3は被調査者C (以下「C」とする) のデンドログラムである。また、表3は、Cのサブカルチャーのイメージ形成の切っ掛けである。

クラスター1は『1) 日本のサブカルチャー (0)』『12) 日本人のファッションは便利そう (+)』『11) ごみを捨てるシステムがいい (+)』『13) 日本人はハンバーガーのことが分からない (0)』『9) ときどき買った氷の味が変 (-)』『10) カプセルホテルがとても便利 (+)』<sup>5)</sup>の6項目でクラスター名は「面白い日本のサブカルチャー」とした。クラスター1についてCは「クラスター1は日本のサブカルチャーの中のファッションのことで、日本人のファッションは便利そうにみえる。日本人はゆったりした大きい服を着ていることが●(国名)と違う点だ。日本のゴミの出し方はとてもいいと思う。月曜と木曜はゴミの日とか、ゴミを出す日が決まっているのはちょっと面白くて町がきれいだと思う。●(国名)は毎日ゴミを出すから便利だが、結果的に道は汚くなる。」と解釈した。

クラスター2は『2) 若者文化 (0)』『7) 日本人のパーティーゲームは本当に変! (0)』『8) 酔っ払いの日本人がやさしくて面白い (+)』『4) 花見が思ったより楽しくない (0)』の4項目でクラスター

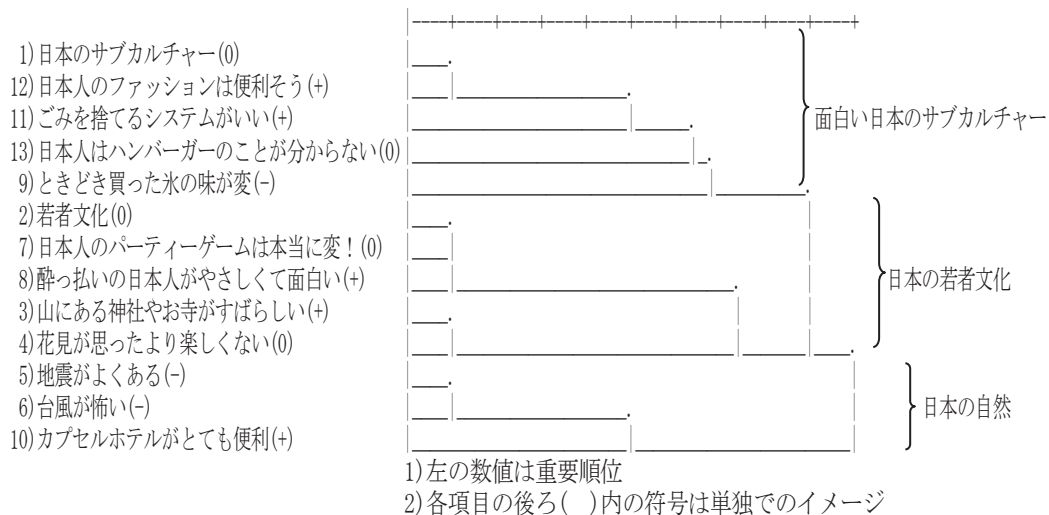


図3 Cのデンドログラム

名は「日本の若者文化」とした。クラスター2についてCは「クラスター2は若い日本人の文化についてのことだが、そんな文化は教科書から勉強できないから日本に来てびっくりした。日本人のパーティーは本当に面白いと思う。日本人のゲームはちょっと不思議だと思う。ちょっとうるさくて本当に面白いけど難しい。ゲームは速くて難しいけど、面白い。そして、酔っ払いの日本人は面白くて優しいと思う。酔っ払うと良くハグしてくるから面白い(笑い。)」と解釈した。

クラスター3は『5) 地震がよくある(-)』『6) 台風が怖い(-)』『3) 山にある神社やお寺がすばらしい(+)]<sup>6)</sup>の3項目でクラスター名は「日本の自然」とした。クラスター3についてCは「クラスター3は日本の自然についてだが、たくさん新しいことを感じた。地震がよくある。また、台風の時は本当に怖かった。教科書やインターネットで見た日本の自然のイメージとは違う。教科書やインターネットでは地震とか台風とかは見ることができない。地震と台風は怖かった。日本の自然は本当にきれいだ。神社かと山とか寺とか池とか、すべての自然がきれいだ。でも地震は嫌いだ。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について「クラスター1の日本人のファッションはクラスター2の若い人の文化と関係があるけどちょっと違うと思う。若いファッションデザイナーがいなくて大人が作ったファッションの服を若い人が着ている。」と解釈した。クラスター2と3について「クラスター2の『4) 花見が思ったより楽しくない(0)』は花見が思ったより楽しくなかったからだ。花見は自然と関係がある。花見で若い日本人が集まるから一緒に遊んだり酒を飲んだりした。でも集まった友達が楽しくないように見えた。今年の春は寒かったからちょっと運が悪かったかもしれない。前のように楽しくはなかった。」と解釈した。

全体のイメージについては、「日本の楽しいイメージだ。面白いイメージじゃなくて私が感じたイメージだ。食べ物とか自然とかファッションとかパーティーとか、楽しいイメージだ。」と解釈した。

サブカルチャーと日本語学習については「サブカルチャーと日本語の勉強は関係がある。また、他の外国人や日本の若い人から日本語をたくさん教えてもらったから関係がある。」と回答した。



表3 Cのサブカルチャーのイメージとイメージ形成の切っ掛け

クラスター1：面白い日本のサブカルチャー	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
1) 日本のサブカルチャー (0)	×
12) 日本人のファッションは便利そう (+)	道に歩いている日本人を見て
11) ごみを捨てるシステムがいい (+)	綺麗な街を見て
13) 日本人はハンバーガーのことが分からない (0)	ファミリーレストランで食べてみて
9) ときどき買った氷の味が変わる (-)	飲料水を飲んでみて
10) カプセルホテルがとても便利 (+)	利用してみて
クラスター2：日本の若者文化	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
2) 若者文化 (0)	日本人と会って
7) 日本人のパーティーゲームは本当に変! (0)	パーティーに参加して
8) 酔っ払いの日本人がやさしくて面白い (+)	日本人と一緒に飲み会をして
4) 花見が思ったより楽しくない (0)	寒かったから
クラスター3：日本の自然	
イメージ項目	イメージ形成の切っ掛け
5) 地震がよくある (-)	一週間に三回も地震があって
6) 台風が怖い (-)	部屋にいても台風の音が聞こえるから
3) 山にある神社やお寺が素晴らしい (+)	色々な神社やお寺に行ってみて

#### 4. まとめ

本稿では欧米出身の留学生3名を対象にPAC分析法を用いて彼らが日本のサブカルチャーをどのように捉え、理解しているのかについて検討した。その結果、以下のような特徴が示唆された。

##### (1) 可愛さをアピールする日本のサブカルチャー

Aの『4) 本当にユニーク (+)』とクラスター1の「日本のポップカルチャーは可愛くて優しいイメージがある」の解釈、クラスター全体の「…日本の音楽とか服とかファッションとかは、快適な感じと可愛いイメージがある。」の解釈、Bの『6) 見せ方が可愛い (+)』とクラスター1の「…日本の若者文化は可愛いというイメージが大事にされている」の解釈、クラスター全体の解釈の「…● (国名) 人は内容の濃いものを好み、暴力的なものも好むが、日本は可愛くて軽い感じのものを好む」などから、AとBは日本のサブカルチャーは可愛さをアピールすると考えているようだ。しかし、Bはクラスター2において、「子供っぽい、軽い、幼稚」という良くないイメージがあり、「物足りないと言うより多様でないから選択肢が少ない」と感じている。これらのことから、日本のサブカルチャーの「可愛さ」に対する評価は異なることがわかる。

##### (2) 日本のサブカルチャーはユニークである

Aの『4) 本当にユニーク (+)』、Bの『5) スタジオの雰囲気がほかの国と違う (+)』、Bのクラスター2の「…不思議に思ったのは今の時代にこのようなアナログのものを使うことだ。(中略) このように、見せ方も違うし、用意するものも多いし、キャラクターのように目立つものを使ってアピールするのは日本独特のやり方だと思う…」の解釈、Cのクラスター2の「…日本人のゲームはちょっと不思議だと思う…」の解釈などから、A、B、Cともに日本のサブカルチャーはユニークであると考えることがわかる。

### (3) 日本のサブカルチャーは種類が多い

Aの『7) 色々な種類がある(+)]、Bの『3) アニメの種類が多い(大人向け)(+)』と『9) アニメ・地域などのキャラクターが多い(+)] などから、AとBは日本のサブカルチャーは種類が多いと考えているようだ。

### (4) ルールに厳しい日本人・日本社会

Bの『10) 著作権・個人情報に厳しい(+)]、Cの『11) ごみを捨てるシステムがいい(+)] などからBとCは日本人・日本社会はルールを守ると考えていることがわかる。これは先行研究のルール・規則を守り規範意識の高い日本人(安・宋 2013, 安 2010, 2009, 2008, 2015, 2019)の結果と一致する。

### (5) 日本の若者文化・サブカルチャーに対する好印象

被調査者のイメージ項目に対するプラス・マイナス評価においては、Aの『8) 私の国と同じくらい雨が降る(-)]、Cの『9) ときどき買った氷の味が変わる(-)] 『5) 地震がよくある(-)]、『6) 台風が怖い(-)] など日本のサブカルチャーと直接関係のないイメージ項目に対しては「マイナス」評価をしているものの、日本のサブカルチャーに関しては、Cの『4) 花見が思ったより楽しくない(0)]を除いては、3名とも概ねポジティブな評価をしている。

### (6) 日本の自然災害に対するネガティブなイメージ

Aの『8) 私の国と同じくらい雨が降る(-)]、Cの『5) 地震がよくある(-)]、『6) 台風が怖い(-)] などから、AとCは日本の自然災害に対してネガティブなイメージを持っているようだ。この結果は、石鍋・安(2019)の東南アジア出身者の対日イメージと一致する。このことから、外国人は日本の自然災害にネガティブなイメージを持っていると考えられる。

### (7) 古いものと新しいものが共存する日本のサブカルチャー

Aのクラスター2の「…今の若者は基本とか伝統的なものに挑戦しているからそれは面白いと思う。歌とかファッションに日本の伝統的なものを取り入れているのが面白い。」、Bの「…不思議に思ったのは今の時代にこのようなアナログのものを使うことだ。映像で見せればいいのにポスターとかシールとか差し棒とかを使って説明するのは不思議だ…」から、AとBは、日本のサブカルチャーは古いものと新しいものが共存していると感じているようだ。

### (8) テレビ番組やゲームは展開が早い

Bのクラスター1の「…テレビの番組の展開が早いというのは、●(国名)の番組と違って、まるで推理小説みたいという意味。謎解きのように話にステップがあって、一番面白いところでコマーシャルが入る。」、Cのクラスター2の「…ゲームは速くて難しいけど、面白い」などから、BとCは日本のテレビ番組やゲームにおいては、展開が早いと感じているようだ。

### (9) 日本のサブカルチャーに対するイメージ形成は、被調査者自身の実際の体験によるものが多い

A、B、Cのイメージ形成の切っ掛けについては、表1～表3からもわかるように、Bの『10) 著作権・個人情報に厳しい(+)]の「大学で習って」以外は、被調査者自身の実体験によるものであることがわかる。このことから日本のサブカルチャーに対するイメージ形成は、被調査者本人が直接見聞きした実体験に基づくものが多いと考えられる。

### (10) 日本のサブカルチャーと日本語学習の動機

日本語学習の動機については、Aは曾祖父が日本人だったこと、Bは日本語を習ってから日本のサブカルチャーに興味を持つようになったこと、Cは日本のサブカルチャーが日本語学習の切っ掛けではないがサブカルチャーを通して日本語の勉強をしていること、などから、A、B、Cともに、漫画・

アニメなどの日本のサブカルチャーが直接の日本語学習の動機ではないと回答しており、先行研究の松田・安（2019）の結果と異なる。また、熊野（2010）ではアニメ・マンガを中心とした日本の若者文化が日本語学習の強い動機となっていると述べているが、本調査では異なる結果が得られた。その理由の一つとして、欧米の日本語学習者はアジア圏の日本語学習者より日本のサブカルチャーに接する機会が比較的少ないことが考えられるが、それについては事例を増やして更に検討する必要があるだろう。

以上、欧米出身の留学生は日本のサブカルチャーについて全体的にポジティブな印象を持っており、ユニークで種類が多いと考えていることがわかった。また、Bが述べているように、日本のサブカルチャーは欧米と違って、テレビ番組やゲームは展開が早く、可愛さをアピールすると考えていることが特徴的な点として挙げられる。さらに、日本のサブカルチャーには古いものと新しいものが共存していると考えていることも興味深い点であるといえる。

日本の自然災害に対するネガティブなイメージや、ルールに厳しい日本人・日本社会に関しては先行研究と同様の結果が得られており、これらのイメージは出身国に関係なく、共通の対日イメージの可能性が高いと考えられる。同様の調査を行った東南アジア出身留学生の日本のサブカルチャー観（石鍋・安、2019）、中国出身留学生の日本のサブカルチャー観（松田・安、2019）の結果と考え合わせると、全体的にアニメや漫画に関するイメージが強く、概ねポジティブなイメージを有しており、石鍋・安（2019）が指摘しているように日本のサブカルチャーを単独で捉えるより対日観や伝統文化も含めて総合的に捉えようとする傾向があることがわかった。

## 付記

本研究は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（課題番号 17K02838）の助成を受けて行われた。

## 注

- 1) 本稿で扱うサブカルチャーとは、娯楽、スポーツ、芸能、ファッション、若者文化など日常的に人々に親しまれている文化のことを指す。そのため、茶道や歌舞伎などの伝統文化はサブカルチャーに含めない。
- 2) 国名は被調査者の特定に繋がる可能性があるため、本稿では国名を示さず「欧米出身の留学生」という表現に留めた。
- 3) イメージ項目の作成においては被調査者に、①日本のサブカルチャー、②若者文化を含めて10個以上記入するよう求めたが、Aは8個しか思い浮かばないと回答したため、本研究では8個のイメージ項目でクラスター分析を行った。
- 4) 本稿では、被調査者が特定されないように、国名、地名などの固有名詞はすべて「●」にした。
- 5) 『10) カプセルホテルがとても便利(+)]は、クラスター分析の結果、クラスター3に属するイメージ項目であったが、インタビュー時に被調査者がクラスター1に属すると判断したため、クラスター1に入れてクラスター解釈をしてもらった。
- 6) 『3) 山にある神社やお寺が素晴らしい(+)]は、クラスター分析の結果、クラスター2に属するイメージ項目であったが、インタビュー時に被調査者がクラスター3に属すると判断したため、クラスター3に入れてクラスター解釈をしてもらった。

## 引用文献

- 安龍洙(2019)「日本社会における韓国出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集 グローバル教育研究』2, 1-12.
- 安龍洙(2015)「日本留学経験者の韓国帰国後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』13, 1-14.
- 安龍洙・宋有宰(2013)「外国人の対日観の変化に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合—」『茨城大

- 学留学生センター紀要』11, 81-96.
- 安龍洙 (2010) 「外国人の対日観に関する研究－日本滞在歴の長い韓国人の場合－」『ユーラシア研究』7(4), 373-392.
- 安龍洙 (2009) 「外国人の対日観に関する事例研究－韓国人短期留学生の場合－」『茨城大学留学生センター紀要』7, 1-13.
- 安龍洙 (2008) 「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察－個人別態度構造分析法 (PAC 分析法) を用いて－」『留学生交流・指導研究』10, 31-48.
- 石鍋浩・安龍洙 (2019) 「東南アジア出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』2, 59-72.
- 熊野七絵 (2010) 「日本語学習者とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状とニーズ～」『広島大学留学生センター紀要第』20, 88-103.
- 松田勇一・安龍洙 (2019) 「中国出身留学生は日本のサブカルチャーを通して日本をどう捉えているか」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』2, 73-86.